

アバスチン + S-1 療法

FN 低:催吐性 軽度
診断名:再発大腸癌

○投与スケジュール(1 コース 42 日)

Day1、15、29(点滴):アバスチン div 5 mg/kg
Day1~Day28(内服):S-1 po 80 mg/m²/day

朝・夕食後に内服。28 日間服用、14 日間休薬。

○注意事項

1. アバスチン投与後もインフュージョンリアクションに注意して観察すること。
アナフィラキシー注意。

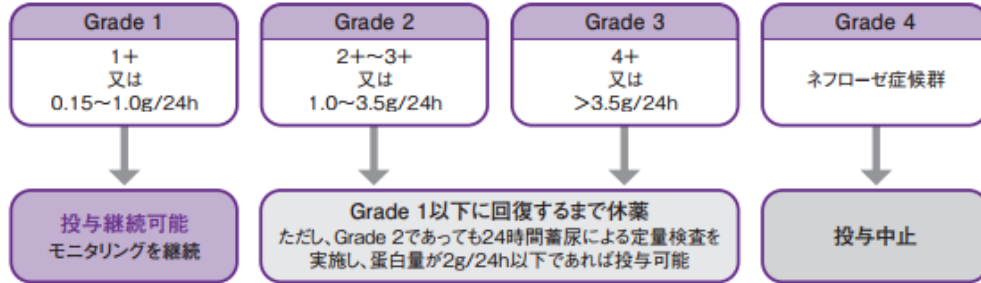
2. アバスチンによる有害事象:高頻度:高血圧、蛋白尿、粘膜出血(鼻、歯肉、膣)
頻度が少ないが重篤なもの:消化管穿孔、創傷治癒遅延、がんからの出血、血栓症(心筋梗塞、脳梗塞、深部静脈血栓症)、可逆性後白質脳症症候群

[S-1 減量基準]

項目	休薬・減量を考慮する値・症状など		再開の目安	
血液学的	白血球減少	≥Grade3	2000/mm ³ 未満	3000/mm ³ 以上
	好中球減少	≥Grade3	1000/mm ³ 未満	1500/mm ³ 以上
	血小板減少	≥Grade2	7.5万/mm ³ 未満	10万/mm ³ 以上
非血液学的	総ビリルビン	≥Grade2	ULN×1.5倍以上(2mg/dL以上)。なお、肝障害が否定される間接ビリルビン値の上昇(2~3mg/dL程度)は治療継続可	ULN×1.5倍未満(2mg/dL未満)
	AST(GOT) ALT(GPT)	≥Grade2	ULN×2.5倍以上	ULN×2.5倍未満
	クレアチニン	≥Grade1	ULN以上	ULN未満
	クレアチニンクリアランス	60mL/min未満(減量を考慮)、30mL/min未満(休薬)		30mL/min未満は基本的に再投与は行わない
	下痢	≥Grade2	ベースラインと比べて4回/日以上の上痢回数の増加; 静脈内輸液を要する	症状回復
	口内炎	≥Grade2	下記Grade2の所見あるいはそれ以上の所見 【診察所見】斑状潰瘍又は偽膜 【機能/症状】症状があるが、食べやすく加工した食事を摂取し嚥下することはできる	
	悪心	≥Grade2	下記Grade2の所見あるいはそれ以上の所見 顕著な体重減少、脱水又は栄養失調を伴わない経口摂取量の減少; <24時間の静脈内輸液を要する	症状回復
	嘔吐	≥Grade2	24時間に2エピソード以上の嘔吐; 静脈内輸液又はTPNを要する	
	食欲不振	≥Grade2	下記Grade2の所見あるいはそれ以上の所見 顕著な体重減少や栄養失調を伴わない摂取量の変化; 経口栄養剤による補充を要する	
その他の非血液学的項目	≥Grade2を目安		症状回復	

[アバスチン減量基準]

参考 国内臨床試験における蛋白尿発現時の休薬・中止基準¹⁾



参考 国内臨床試験における高血圧発現時の休薬・中止基準¹⁾

